

# 令和6(2024)年度農産物直売所・農村レストラン等の都市農村交流施設の利用状況について

令和7(2025)年9月30日 栃木県農政部農村振興課

- 令和6年度の都市農村交流施設の利用者数は、前年度より32万人多い1,929万人（令和5年度比102%）となり、新型コロナウイルス感染症の流行前の平成30年度と同程度まで回復した（図1）。
- 都市農村交流施設の売上額は、過去最高の246億円となった（令和5年度比110%）。

## 1 農産物直売所の動向（図1・図2）

- 利用者数は、前年度より22万人増加し、過去最高の1,701万人（令和5年度比101%）。
- 売上額は、過去最高の208億円。施設数は、前年度より7施設減の161施設。
- 前年度に対して売上額を伸ばした施設は81施設（約5割）。  
 新商品の開発や情報発信の強化、新たなイベントの開催等を行った施設が売上額を伸ばした。

## 2 農村レストランの動向（図1・図3）

- 利用者数は、前年度より8万人多い172万人（令和5年度比105%）。
- 売上額は、過去最高の21.6億円。施設数は、前年度と同じ57施設。
- 前年度に対して売上額を伸ばした施設は32施設（約6割）。  
 地域の特徴を活かした新規メニューの開発やテイクアウトメニューの提供等を行った施設が売上額を伸ばした。

## 3 観光農園の動向（図1）

- 利用者数は、前年度より2万人多い56万人（令和5年度比105%）。
- 売上額は、前年度並みの16.3億円。施設数は、前年度より4施設増の38施設。
- 前年度に対して売上を伸ばした施設は9施設（約3割）。  
 食べ比べプランの導入や、水道・トイレ等ホスピタリティ整備などに取り組んだ観光農園が売上額を伸ばした。

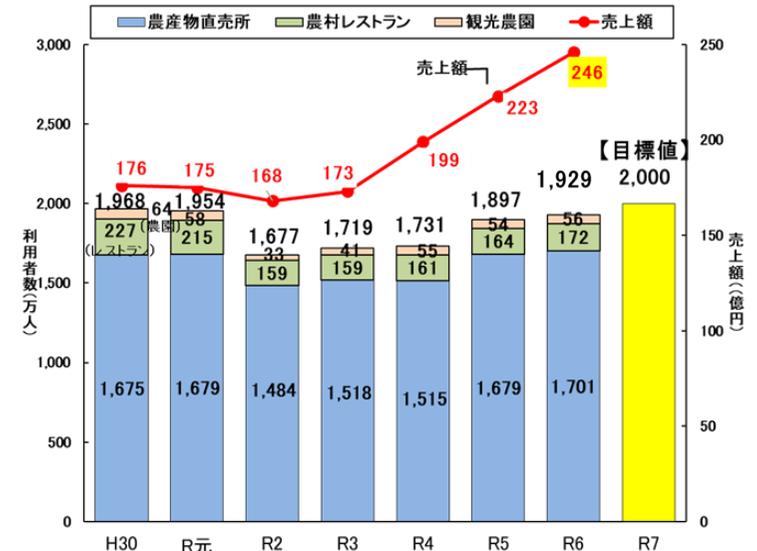


図1 都市農村交流施設全体の利用者数及び売上額の推移



図2 農産物直売所の利用者数及び売上額の推移



図3 農村レストランの利用者数及び売上額の推移

## 【令和6年度のトピックス】

### 【農産物直売所・農村レストラン】

○ 道の駅明治の森黒磯（那須塩原市）

全面リニューアルに伴い、地場産農産物を使った新商品を開発

那須塩原市産の生乳を使ったソフトクリームやヨーグルト、バターのほか、レストランメニューとして地元産の牛肉を使ったハンバーグの提供を開始するなど、観光客の呼び込みに力を入れている。



### 【農産物直売所】

○ 久那瀬農産物直売所（那珂川町）

店内の商品配置や POP 等の設置による販売促進

専門家を招いて運営改善プランを作成し、店内のレイアウトや装飾、販売促進用 POP を見直すとともに、従業員のエプロンを統一して接客意識の向上を図るなど、顧客満足度を上げるための取組を強化した。



### 【観光いちご園】

○ 美土里農園（茂木町）

商品の品質向上とインバウンド等の受入体制強化

いちごの品質向上と生産の効率化を図るため、ICT技術を活用して栽培環境をモニタリングするスマート農業機器を導入した。また、海外市場も視野に入れたテストマーケティングに取り組むとともに、多言語に対応できる従業員を雇用した。

